

受益者の皆様へ

平成 25 年 6 月 7 日

SBI アセットマネジメント株式会社

弊社ファンドの基準価額の下落について

平素はSBI小型成長株ファンド ジェイクール(愛称:jcool)(以下、「本ファンド」といいます。)をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。2013 年6月7日に国内の株式市場が大きく下落したことを受けて、本ファンドの基準価額が下記の通り下落いたしましたので、その原因等についてご報告申し上げます。

1. 基準価額及び下落率(6月7日)

ファンド名称	基準価額(円)	前日比(円)	騰落率(%)
SBI小型成長株ファンド ジェイクール(愛称:jcool)	5,129	▲303	▲5.58

2. 基準価額の主な下落要因及び今後の見通し

本ファンドの投資助言を受けておりますエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社のコメントは以下の通りです。

7 日のわが国の新興株式市場は、前日に引き続き大きな下落となりました。株式市場全般が大きく変動した背景には、円安基調の一般や米国の金融政策に対する不透明感など、様々な要因が取り沙汰されていますが、年末からはぼ一本調子に上昇を続けた調整といえそうです。実際、株価の抛り所となる景気動向や企業業績については、現時点で共に死角は見当たりません。まず、景気動向については、先月日本銀行が国内経済の基調判断を 5 ヶ月連続で引き上げたように、順調な回復基調を辿っています。次に、企業業績も総じて順調といえそうです。3 月期企業の決算発表が終了し、ポートフォリオ組入企業に対する個別直接面談を連日実施していますが、多くの企業の業績は想定通り、または想定以上に推移していることが確認できています。しかも、新年度の業績計画は、例えば、前提となる為替レートを 1 ドル=90 円前後、1 ユーロ=120 円前後に設定するなど、保守的に策定している企業が多いため、むしろ今後の上方修正が期待できる企業が増えている印象を受けています。

そして何よりも、経営者の方々の表情が一様に明るいことが、先行きの明るさを示唆しています。例えば、人材関連企業からは「従来は退職者の補充案件が多かったが、増員計画に基づく案件が増えている」、設備投資関連企業からは「4 月頃から様々な業界から引き合いが増えている」といったコメントがあるなど、足元で手ごたえ感が高まっていることが確認できています。このように、企業を取り巻く環境は総じて好転しており、その中で成長性を加速している企業もしっかり確認できていますので、実体と株価とのかい離が進んでいると考えています。株価は中長期的には企業の成長性に見合った水準に収れんすると考えられるため、今後も徹底した調査活動を継続してまいります。

以上、当社ではエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社からの投資助言により、引き続き適時適切な運用を行うべく努力していく所存ですので、今後ともよろしくご依頼申し上げます。

以上

SBI小型成長株ファンド ジェイクール(愛称:jcool)

ファンドの費用

購入時手数料	購入申込金額に3.15%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た金額となります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に対し0.3%
運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に年1.785%(税抜1.7%)を乗じて得た金額とします。なお、当該報酬は、毎計算期末を含む毎月22日(22日が休業日のときは翌営業日)または信託終了のときファンドから支払われます。
その他の費用及び手数料	監査費用、有価証券売買時の売買委託手数料等 その他の費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。監査費用を除いては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
その他	※上記費用及び手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に依りて異なりますので、表示することができません。

ファンドにかかるリスクについて

【基準価額の変動要因】

本ファンドは、マザーファンド受益証券を通じて主に国内株式を投資対象としています。株式等値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動し、投資元本を割込むことがあります。特に投資する中小型株式等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。その結果、投資元本を割込むことがあります。

信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者に帰属します。

<主な変動要因>

価格変動リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して変動します。本ファンドは株式の価格が下落した場合、基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

流動性リスク

株式を売却あるいは取得しようとする際に、十分な流動性の下での取引を行えず、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

信用リスク

投資した企業や取引先等の経営・財務状況が悪化するまたは悪化が予想される場合等により、株式の価格が下落した場合には基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

※リスクは上記に限定されるものではありません。

《投資信託ご購入の注意》

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

委託会社 SBIアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第311号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会



○本資料は、エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社のコメントを基として、SBIアセットマネジメント株式会社が作成しておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。